

第41回全日本スポーツチャンバラ選手権大会で入賞 10/6 (火)



第41回全日本スポーツチャンバラ選手権大会で市スポーツチャンバラ協会仁武館(河村直仁代表)の宗次和将さんが盾小太刀・初段以上の部で第3位に、石川大雅くん(三島東中2年)が、楯長剣1・4級の部で準優勝したことを報告するため、市長を表敬訪問しました。

～えひめ国体での雪辱を誓う～  
第70回国民体育大会で3位入賞 10/7 (水)



第70回国民体育大会フェンシング成年女子サーブルに出場した森美里さん(県競技力向上対策本部)、三好茉莉子さん(三島南中教諭)福本かなさん(三島高教諭)が市長を表敬訪問しました。3人は、9月29日・30日に開催された同大会の県代表で出場し、3位入賞したことを報告しました。

～元気に暮らすために～  
第12回四国中央市健康まつり 10/3 (土)



四国中央市保健センターで健康まつりが開催されました。これは、健康管理のための体験を通して健康づくりに関心を持っていただき、そのきっかけとなるよう参加体験型のイベントとして開催されたものです。会場では、骨量の測定などがあり、訪れたおよそ2,200人は健康に対する意識を高めていました。

～月の上のガラスの町～  
市民ミュージカル上演 10/3・4



土居文化会館ユーホールで四国中央ふれあい市民劇団による第6回市民ミュージカル「月の上のガラスの町」が上演されました。今回の作品は、古田足日さんの著書をミュージカルにしたもので、何百年後かの未来、大きなガラスに覆われた町で人類が暮らすようになった月を舞台に、恋愛や家族・親子の物語が繰り広げられました。

～四国のまんなかで婚活を考える～  
第5回四国まんなか市長サミット 9/26 (土)



三好市保健センターで第5回四国まんなか市長サミットが開催されました。これは、本市と隣接する観音寺市と三好市の3市が連携・協力することで、地域活性化を目的に毎年開催されており、広域的な取り組みとして、あらゆる業種が参加する合同婚活イベントの開催についての提案がありました。

～光り輝く月の下で～  
暁雨館で観月会を開催 9/26・27



土居町の暁雨館で観月会が開催されました。今回で12回目の開催となり、2日間で合計150人を超える人が来場しました。訪れた来場者たちは、お茶席を楽しんだり、月明かりの下で奏でられる箏や笛の調べに耳を傾けたりして秋の夜長のゆったりとした時間を過ごしていました。

～防災意識向上体験～  
花植え・非常食体験会 9/27 (日)



蕪崎公民館で花植え・非常食体験会が実施されました。この体験会は、蕪崎地区コミュニティ協議会の防災意識向上体験活動の一環として催されました。40人を超える参加者たちは、みんなで楽しく花植えをした後に防災非常食のおもちなどの試食体験を行いました。

ジュニアオリンピック  
陸上競技大会に出場! 9/29 (火)



VIVID陸上クラブ(山根テル子代表)に所属する秋山優衣さん(三島西中1年)が、第46回ジュニアオリンピック陸上競技大会への出場報告のため、市長を表敬訪問しました。全国大会に向けて、秋山さんは「自己ベストの記録を出せるよう頑張ります」と、力強く目標を話していました。

たかたのゆめちゃん  
本市を表敬訪問 9/14 (月)



陸前高田市マスコットキャラクター「たかたのゆめちゃん」が上分保育所を表敬訪問しました。これは、陸前高田市復興応援支援センターに派遣された職員へのお礼と、陸前高田市を訪れたことのある保育士がヒマワリの種を持ち帰り栽培した、上分保育園の園児と交流するため訪れたものです。

～爽快にドライブ～  
四国EVラリー2015inしこちゅ～ 9/21・22



市内観光施設などを電気自動車で行く四国EVラリー2015inしこちゅ～が行われました。これは電気自動車をはじめとしたエコカーの普及支援を目的として今年で18回目の開催となります。参加者たちは四国中央市の景色を楽しみながら爽快にドライブをしていました。

～油断大敵～  
高齢者交通安全お達者大会 9/25 (金)



川之江町の宇摩自動車教習所で、宇摩交通安全協会川之江地区連合会による、第29回高齢者交通安全お達者大会が行われました。参加した川之江地区老人クラブ連合会の約160人は、歩行時の正しい道路の渡り方や交通安全〇×クイズなどで楽しく学び、交通安全意識の高揚を図りました。

～交通事故に遭わないために～  
交通安全サイクリングフェア 9/25 (金)



土居町の関川サイクリングコースで交通安全サイクリングフェアが開催されました。参加した土居中学校の3年生22人は自転車に乗ってのコース走行を行い、土居地区老人クラブの11人は安全な道路横断についての講習をそれぞれ行いました。

**市長のひとりごと**

年齢からすれば、自分も子どもが3人いるので、孫の4～5人はいっても不思議ではないと思うが、残念ながら全くいないのである。(ただ、事情があつて、北国に1人いるのではあるが)

私自身、子どもが幼少の頃の記憶がほとんどない。それも、この立場になってみて、そのことを思い知らされている。そんなことから、卒園式や運動会に行くと、逆に信じられないくらい初体験のような感動がある。

また、図書館に行くと、「コミックエッセイ」というコーナーがあり、そこには、女流漫画家やイラストレーターが、自分の家族や自分の生活に密着した題材から構成しているコミックがたくさん並んでいる。当然、子育てに絡んだものもあり、例えば、トマ「さん」の「男の子って、こうして育つ」や、細川貂々さんの「旦那と息子の家族本」、益田ミリスさんの私小説のような漫画があり、借りて来ては、布団の中に入ってから読んでいる。まあ、半分は勉強していると言ってもいい。

先日、公立の幼稚園と保育園の合併がうまくいかないという話を聞いたので、幼稚園の関係者に話を聞いてみた。話の内容は、いろいろあったが、保護者の中には、子どもを育てることは苦勞もたくさんあるが、その喜びもいっぱいあり、それを、時間的に余裕がある幼稚園で経験したいという希望を持っている方が、結構おられるということであった。

計画は計画としてあるが、私の弱いところで、話を聞いてしまうと、非常に悩ましいことである。まだ少し時間があるので、いろいろな人の話をよく聞いてみようと思っている。

決断する時は、自分の背中に背負っている重さを感じることを大切に。

**市長のひとりごと**

四国中央市長 篠原実

テーマ 幼少の頃